

営業職全体学習交流会

国労水戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 久保田重明
編集責任者 坂下 司

要員が増えれば

9月25日、営業職全体学習交流会を開催した。駅職場での苦勞、問題点を話し合い共有化してきた。参加者は全体で30名、13駅から仲間が集まり交流した。

車椅子・酔客・遺失物・列車遅延の案内含めての対応など出改札以外の業務も結構ある。

最終電車が行った後、ホームなどの確認時、黒い塊があり『ピクツ』と動いたので、人だなど思い近づいてみると酔客だった。タクシーなのか

救急車の手配なのか等大変だ。

委託駅で最終列車の客扱いをしないところがある。酔客の関係から「本当に良いのだろうか」と感じる。

券売機の締切り最中で別な対応が発生する場合があります。そうなると、どこまで実施したのかわからなくなってしまう。

隣接する駅の営業時間の変更で「なぜ窓口営業時間を変更するのか」と聞かれる。今後、自駅の「みどり

職場の矛盾

仕事の不満

国労に結集し

みんなが相談 解決へ

の窓口の営業時間の変更」があり、どう答えれば良いのだろうかと考えてしまう。そのため周知内容について本心に心配である。

券売機についても、通常お客が操作するが社員ですら取扱いが難しいものがある。

常磐線内の切符を売っている分には心配ないが、新幹線などで難しい内容になってくると大変さを感じる。



2018年度年末手当

3.18 箇月分 (昨年と同月数)

12月4日以降準備出来次第支払

国労は3.5箇月+5万円を要求に、11月1日に第1回交渉、11月9日に第2回交渉を行った。

11月14日、3回目の交渉で「基準内賃金×3.18箇月」の回答が示された。会社は営業利益が2期ぶりの減益に転じた、将来にわたって成長を続けていくため、想定される厳しい経営環境の変化、「変革2027」の実現に、さらなる挑戦を期待する。世の中と比較しても十分高い回答とした。

国労の要求に対して社員の生活向上に答えるには不十分な回答であった。

一列車に車椅子対応が複数あり、乗車車両が異なる場合などパニックになってしまう。集約から、色々な仕事が発生しているが、休憩時間について全体として考えて行こうと話がされ、今後の持ち寄る課題として整理された。